

マルチスタティックソナー(信号処理部)の研究に関する  
外部評価委員会の概要

1 評価対象項目

マルチスタティックソナー技術の研究

(1)マルチスタティックソナー(艦上処理部)の研究

[中間評価(研究試作終了時点)]

(計画担当:技術開発官(船舶担当))

2 評価対象事項

マルチスタティックソナー関連技術

3 事業の概要

(1)研究の目的

マルチスタティックソナーシステムのソナー信号処理、通信方式、指揮管制に関する技術資料を得る。

(2)研究開発線表(委員会開催時点)

別紙1参照

(3)試作品の構成

別紙2参照

(4)運用構想

別紙3参照

4 外部評価委員会の概要

(1)日程・場所:平成16年11月17日

防衛庁技術研究本部

(2)評価委員(職名は委員会開催時点、敬称略)

(委員長)浅田 昭(東京大学生産技術研究所教授)

遠藤信行(神奈川大学工学部教授)

斎藤繁実(東海大学海洋学部教授)

土屋利雄((独)海洋研究開発機構横浜研究所部長)

(3)説明者:技術開発官(船舶担当)付第5開発室 大戸出水室長他

(4)研究試作結果の概要等

別紙4参照

(5)議論・質疑が集まったところ

・海外のマルチスタティックソナーの研究動向

- ・浅海域音響伝搬特性の取得方法確認
- ・今後の通信手段の見通し
- ・受信艦だけでなく、送信艦の表示の重畳可能性
- ・無人送信艦の可能性
- ・衛星を使った場合のタイミング修正法
- ・3艦運用の場合の計算法
- ・広帯域信号使用の可能性
- ・ニューラルネット学習データについて
- ・MHT(多重仮説トラッキング)方式においてデータ収束しない場合の処置
- ・試験海域選定の考え方

(6)要処置・検討事項

- ・特になし

(7)頂いたコメント、提言等

- ・科学的にも興味深い研究である。
- ・得られた技術資料を、学会等外部にも発信することを期待する。
- ・試験終了時点の委員会における結果報告を期待する。 等

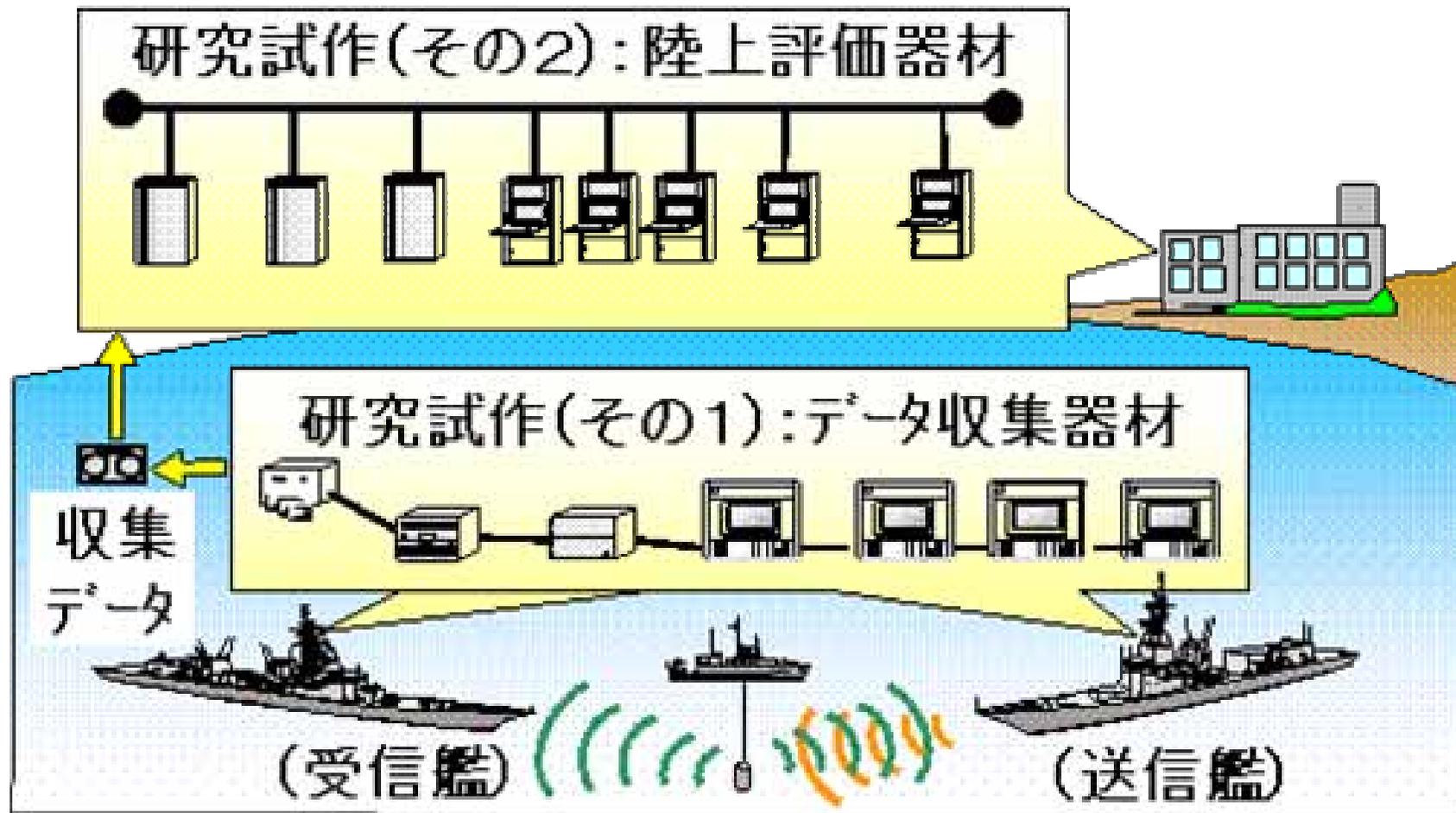
5 外部評価委員会のまとめ

ハードルの高い、意義深い研究である。水中音響分野において、日本でも進んだ研究を行っていることを外部に向け発信することを期待する。

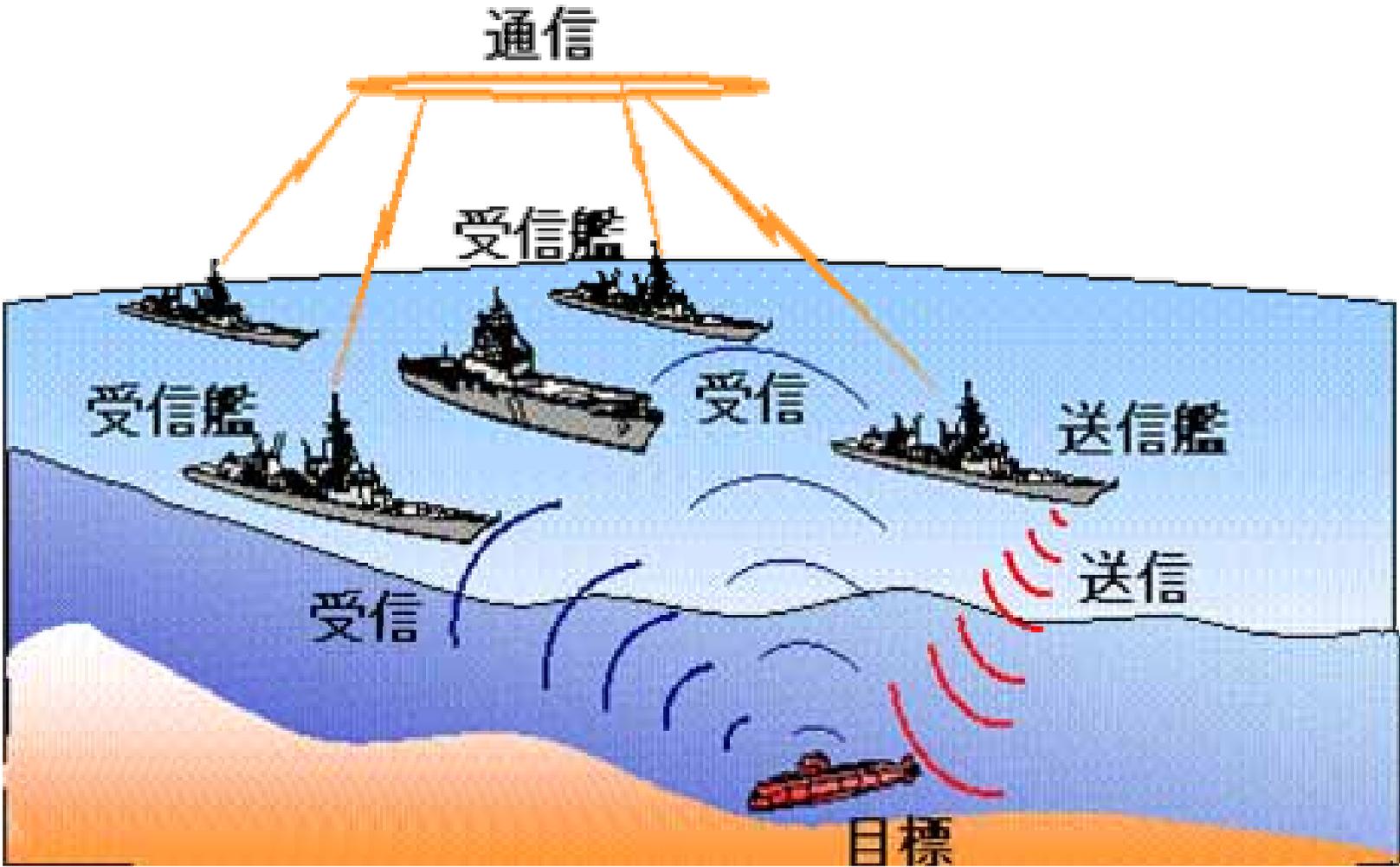
# 研究開発線表

年度	13	14	15	16	17	18
全体計画	研究試作					
	←			→		
				所内試験		
				←		
				→		

# 試作品の構成(主なもの)



# 運用構想図



# 目標検出及び統合処理の例

